

令和 5 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 きずなクラブ

氏 名 吉田 洸龍

項 目	研修費		
費 目	参加費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
4-1	10 / 17	10,000	第85回全国都市問題会議 参加費(八戸市)
5-1	10 / 12	10,000	第85回全国都市問題会議 参加費(八戸市)
6-1	10 / 12	10,000	第85回全国都市問題会議 参加費(八戸市)
7-1	10 / 12	10,000	第85回全国都市問題会議 参加費(八戸市)
3-1	10 / 11	10,000	第85回全国都市問題会議 参加費(八戸市)
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計	50,000		備 考
合 計	50,000		

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	参加費	整理番号	4-1
領 収 書 等 貼 付 欄					

会議参加費 領収書

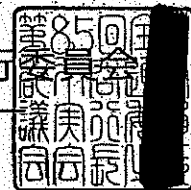
石橋 亮志 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年 10 月 17 日

第85回全国都市問題会議実行委員会
会 長 熊 谷 雄 一



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領収書等貼付用紙

項目	研修費	費目	参加費	整理番号	5-1
領収書等貼付欄					

会議参加費 領収書

三浦 博司 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年 10 月 12 日

第85回全国都市問題会議実行委員会
会 長 熊 谷 雄 一



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	参加費	整理番号	6-1
-----	-----	-----	-----	------	-----

会議参加費 領収書

田名部 裕美 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年 10月 12日

第85回全国都市問題会議実行委員会
会 長 熊 谷 雄



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	参加費	整理番号	7-1
領 収 書 等 貼 付 欄					

会議参加費 領収書

吉田 洗龍 様金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年 10 月 12 日

第85回全国都市問題会議実行委員会
会 長 熊 谷 雄 一



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	参加費	整理番号	3 - /
領 収 書 等 貼 付 欄					

会議参加費 領収書

寺地 則行 様金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年 10 月 11 日

第85回全国都市問題会議実行委
会 長 熊 谷 雄 一



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

全国都市問題会議 会議参加報告書

日程 : 令和5年10月12日～13日

場所 : 八戸市公会堂

参加議員: 寺地 則行 石橋 充志 三浦 博司

田名部 裕美 吉田 洸龍

『第1日 令和5年 10月12日(木)』

*基調講演

日々野克彦氏(東京藝術大学長、アーティスト)

*主報告

熊谷雄一氏(八戸市長)

*一般報告

吉川由美氏(文化事業ディレクター、演出家)

花岡利夫氏(東御市長)

鈴木秀樹氏(株鹿島アントラーズ FC 取締役副社長)

『第2日 令和5年 10月13日(金)』

*パネルディスカッション

小林真里氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

今川和佳子氏（合同会社 imajimu 代表取締役）

松橋崇史氏（拓殖大学教授）

頼重秀一（沼津市長）

山崎善也（綾部市長）

所感

当市において『文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展』というテーマで開催され、全国の首町や各市の議員を含め1800名が参加をした。

当日は市庁前広場に三社大祭の山車が展示され、多くの方がその豪華絢爛な山車に感激をし写真撮影をしていた。

主報告では熊谷市長による、八戸市美術館やはっちを核とした文化のまちづくりや、フラットアリーナ、YSアリーナ等のスポーツ施設や、ヴァンラーレ八戸や東北フリーブレイズ等プロスポーツチームとのまちづくりの取り組みが紹介された。

特に印象に残ったのは八戸市出身の鈴木秀樹氏の鹿島アントラーズがプロサッカーチームとして、30年にわたり鹿島市や地域との関わりの事例であった。

鹿島アントラーズのスポーツ専門ドクターが市民も診療する体制や介護予防医療、スタジアムへの遠足の受け入れや人材育成にも取り組んでいる事例は、地域貢献という観点からも大変参考になる取り組みであった。

プロスポーツチームがあり試合をすることで多くのファンが鹿島を訪れ、経済効果をもたらすと共に、様々な地域貢献することによって地元からも応援してもらえるチームになると思う。

当市のプロスポーツチームも行政に頼るだけでなく地域貢献を念頭にし、多くのファンを増やし、まずは地元から愛されるチームになることが不可欠だと思う。